

様式 3

平成 2 3 年 度 第 1 回 学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

鳥取県立倉吉東高等学校

学校長 牧 尚志

評 価 日		平成 2 3 年 5 月 2 6 日 (木)			
委 員	氏 名	年 齢	性 別	資 格 ・ 所 属 等	委 員 長
	朝井 正教	5 9	男	倉吉市立東中学校長 (中教)	○
	海地 道雄	4 1	男	倉吉市立西中学校 P T A 役員 (地域代表)	
	和泉 博伸	5 3	男	倉吉東高育友会監事 (保護者代表)	
	小谷 次雄	7 1	男	学校評議員	
	寺坂 和利	5 1	男	学校評議員	
	大前 拓也	5 6	男	学校評議員	
評 価 ・ 提 言				学 校 の 所 見 ・ 改 善 策 等	
1. 前年度の最終評価について ・ 特に無し。 2. 今年度の評価計画について (1) 目標設定について ・ 「倉吉東高のかたち」の概念図は、わかりやすく、よい。この概念図に沿った取り組みを力強く感じる。 ・ 目標設定に「特色ある教育」が上がっていないが、地域からの信頼は特色ある教育活動とつながっているので、重点的に取り組んでほしい。 ・ 街づくりは人づくり。中長期ビジョンとはどのくらいの期間か。生徒は三年間で卒業してしまう。 ・ 年度ごとの取組はどうか。				・ 「倉吉東高のかたち」が出来てから 1 0 年経過し、多少手直しし、わかりやすいものにした。 ・ 「主体的な学習者の育成」「2 1 世紀をリードする人材の育成」のために「質の高い授業」「文武両道」「自主自律」「特色ある教育」の四つが支えている。「特色ある教育」はその中の重要な柱である。 ・ 中長期ビジョンは 1 年や数年ではない。自主自律は 1 0 0 年間の計画。そのように目指す生徒を育てる。少なくとも 1 0 年から 2 0 年はもつ目標である。 ・ 今提示しているもの。今年度の重点	

(2) 目標達成のための取組について ・学校文化度の向上と地域からの信頼向上について、「地域」とは中学生や保護者が中心であると思っているが、ターゲットをしっかりと決めて取り組んでほしい。 ・倉吉東中学校との「スクラム教育推進事業」では、英語を中心に意欲的に積極的に関わっていただき、感謝している。この取り組みをぜひ進めてほしい。生徒へのアンケートでは75%がよくわかったと回答した。倉吉東高と協力しながら進め、他の中学校へ取り組みの成果を提供し、中部全体の学力向上に努めたい。 ・倉吉東高の進路指導の充実を嬉しく思う。よい年、悪い年を作らないように各中学で連携して高校入学時に影響しないようにしないといけない。高校ではよく育ててもらっている。今年の3年生の状況はどうか。 ・途中で不適応を起こす生徒はどうか。進学の実績はうれしいが、適応できない子どもが出ないよ	目標や具体的な項目は今年度取り組むことである。 ・「地域」とは中学生や保護者が中心だと考えている。高校説明会ではチューターを中心に在校生が説明を行ったり、倉吉東中学校との連携「スクラム教育推進事業」等に取り組んでいる。 ・二年前の一番よかった年と今年の卒業生の間くらいである。 ・嘗ては今年の入学生は「よい」「わるい」と評論家的な面があった。反省している。本校には中部地区の力のある生徒が入ってきている。入学年度により入学生に差はあるが、今年は仕方ないなどと義務教育のせいにしてよいことはない。今年の卒業生も入った時は低かったが、指導して今年の結果となった。数値目標を設定し、模試ごとに反省するシステムが確立している。進学実績は必要条件である。進学を保障する。その上で中高及び中学校同士の壁を取り払い、中部地区全体の教育力が上昇するよう全力で取り組みたい。 ・不登校や相談室登校の生徒が一定数いる。一年生と二年生。人間
--	---

う考えてほしい。どちらも頑張ってもらいたい。 ・学力について、どの学校に行っても取り組める学力を中学でつける必要がある。平均ではなく、一人一人の生徒がどう伸びていったかが大切。平均だと上の生徒が低い生徒のカバーをしてしまう。力をつけて総産でも倉西でも行って欲しい。 ・中部は上位の生徒が少ないが。 ・伸びる生徒を伸ばす指導も必要。まんべんなくではなく。フォローアップ。取り組みについては、1学期後公開したい。学力を上げるには3つの取り組みがあると思う。①学校間格差をなくす。②学校の中の子ども間の差をなくす。③子どもが志を持って勉強に向かう。 (3) 評価基準及び評価指標について ・特に無し	関係や教科数が増えた負担感。 ・特別支援会議を開いている。原因は複雑。個別の指導にも手厚く対応している。0は難しい。どうしてもでる。社会的な要因もある。 ・専門医、養護教諭、相談係、保護者と連携して取り組むことが必要である。 ・チューター制度は、先輩と取り組むことで、教師とは違う良い影響があり、安心して学校生活が送れている。部活、学園祭、個人面談などの取り組みも力を抜かない。不適應にならないと言った消極的な取組でなく、更に前向きな取組を行いたい。 ・中部は厳しい状況にある。放置できない。上位者200点以上について、人口比なら東中西部が2:1:2の割合になっている。 ・この計画で半年間取り組み、10月には中間報告をする。取り組みの内容や成果をあわせて提示したいので、よろしくお願いしたい。
--	---

3. 学校運営への提言 ・「地域」を中学と地域に分け、中学生や保護者を対象にしてしっかり取り組んでほしい。	・A B C の 3 段階の評価基準から 4 段階の A B C D にした。B に偏りがちになりやすいのを改善した。
--	---